

# 島原市報道資料

令和元年 5月28日

報道関係者 各位

令和元年6月3日「いのりの日」市長コメントについて

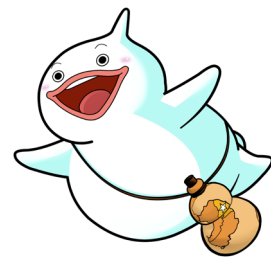
標記の件について、別紙のとおり古川市長のコメント送付いたします。

---

有明海にひらく湧水あふれる 火山と歴史の田園都市 島原



担当：島原市秘書人事課 秘書広報班 担当 稲田  
電話：0957-63-1111（内線122）  
E-mail：hisho@city.shimabara.lg.jp



島原守護神 しまばらん

令和元年 5 月 28 日

市政記者 各位

島原市市長公室

秘書広報班

## 令和元年 6 月 3 日「いのりの日」市長コメントについて

このことについて、下記のとおり送付させていただきますので、記事への掲載等よろしくお願い申し上げます。

### 記

#### 島原市長 コメント

平成 3 年のあの忌まわしい雲仙・普賢岳噴火の大火砕流惨事からまもなく丸 28 年となる 6 月 3 日「いのりの日」を迎えます。大火砕流により尊い犠牲となられた 44 名の方々の無念の思いとご遺族の深い悲しみに思いをいたす時、耐え難い痛惜の念がこみ上げてまいります。ここに謹んで哀悼の誠を捧げます。

本年も、午前 8 時 30 分から午後 6 時まで、市内仁田町の仁田団地第一公園内に献花所を設けますので、多くの皆様の献花をお願いいたします。また、災害発生時刻の午後 4 時 8 分には、防災行政無線により全市内にサイレンを吹鳴いたしますので、黙とうをお願いいたします。

思い起こしますと、平成 2 年 11 月、198 年ぶりの噴火に始まり、翌年 6 月 3 日に多くの死者・行方不明者を出す大火砕流惨事、私も当時消防団員として共に警戒に当たっており、同志であった消防団員 12 名の方々をはじめとする尊い人命を失った悲しみ、また、子供たちも含め多くの市民がこの先どうなるのか不安に怯えていた光景は、今も深く心に刻まれています。その後の相次ぐ土石流や火砕流、降灰により、多くの市民の皆様が長期にわたる避難生活を強いられ、社会的・経済的に甚大な被害を受けました。

こうした状況の中で、上皇上皇后両陛下が本市をお見舞いに訪れていただき、避難所である体育館の床にひざまずき、市民に優しく言葉を掛けられ、励まされたことは忘れることのできない出来事でありました。

そして 5 年にも及ぶ災害が終息し、復興に向け市民一丸となって復興を進める矢先に天皇皇后両陛下が噴火災害犠牲者の追悼と市民への励ましに来島されたことも忘れることはできません。

災害からの復旧・復興と長い道のりではありましたが、国・県をはじめ全国から多く

の皆様の温かいご支援を支えに、市民皆様の「ふるさと島原を蘇らせたい」という強い思いが行政と一体となって、今日の復興を成し遂げることができました。

しかしながら、災害から28年が経過した今、災害の記憶も少しずつ薄らぎつつあるのも事実です。こうした時の流れを踏まえ、島原市では6月3日を「いのりの日」として位置付け、雲仙・普賢岳噴火災害により犠牲になられた方々を慰霊し、噴火災害を風化させることなく、災害教訓を後世に伝えていく決意を新たにするとしております。

市内各小・中学校においても、それぞれ「いのりの日」の集会を開催し、当時の災害や復興の過程などを学ぶこととしております。

また、噴火災害と復興の貴重な経験を通して学んだ「生命・きずな・感謝の心」をこれからもずっと大切にしながら、「人と火山が共生する」島原半島の更なる飛躍に向け、島原半島ユネスコ世界ジオパークを核とした地域の活性化と災害に強いまちづくり、防災教育の充実などに取り組んでまいりたいと存じます。

そして新しい元号「令和」の時代は、災害とは無縁であり、人々が平和を実感でき、友好の和（輪）が広がることを切に願います。

引き続き皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

問い合わせ

島原市市長公室 秘書広報班

(担当：稲田) ☎62-8000